

## ATTENTION

### 日本の凋落が一目でわかる表

1989年世界時価総額上位20社			2021年3月世界時価総額上位20社		
国	会社名	時価総額 (億ドル)	国	会社名	時価総額 (億ドル)
日本	日本興業銀行	1040	米国	アップル	20500
日本	住友銀行	730	サウジアラビア	サウジアラムコ	19200
日本	富士銀行	690	米国	マイクロソフト	17800
日本	第一勧業銀行	640	米国	アマゾン	15600
米国	エクソン	630	米国	アルファベット	13900
米国	ゼネラル・エレクトリック	580	米国	フェイスブック	8380
日本	東京電力	560	中国	テンセント	7520
米国	IBM	550	米国	テスラ	6410
日本	トヨタ自動車	530	中国	アリババ	6140
米国	AT&T	480	米国	パークシャー・ハサウェイ	5870
日本	野村証券	460	台湾	台湾セミコンダクター	5340
オランダ	ロイヤルダッチ石油	410	米国	ピザ	4670
米国	フィリップ・モリス	380	米国	JPモルガン	4640
日本	新日本製鉄	360	米国	ジョンソン・エンド・ジョンソン	4320
日本	東海銀行	350	韓国	サムソン電子	4300
日本	三井銀行	340	中国	貴州茅台酒	3850
日本	松下電器産業	330	米国	ウォルマート	3820
日本	関西電力	330	米国	マスターカード	3530
日本	日立製作所	320	米国	ユナイテッド・ヘルス	3510
米国	メルク	300	フランス	LVMHグループ	3360
米国	6社		米国	13社	
日本	13社		日本	0社	

この表は、2021年のパークシャー・ハサウェイ株主総会でバフェットが掲げた表です。バフェットは米国企業の強さを示そうとしています。特に日本企業の凋落を言おうとしたわけではありません。しかしながら、我々日本人が見ると、唖然とします。1989年に日本企業が世界を席巻していたのに。いまでは1社もないのです。1989年当時の日本の繁栄は何だったのか。おそらく「行け行けどんどん」で、アメリカを追いかければよかったのです。そして追う相手がなくなった。つまりここからは、自分で考えていかなければならなくなったのです。その能力が日本にはなかったということです。ここまではラッキーの賜物だったとも言えます。その後の凋落の原因は何なのか。おそらく努力せずに油断し、ゆで蛙状態で時を無駄にしたということです。その病状は治癒不能のところまで来ているといっても過言ではありません。

## COLUMN

### ソフトバンクグループ-危うきに近寄らず

ソフトバンクグループの総帥、孫正義さん。最近もビジネス誌のインタビューで「いかがわしくありたい」と相変わらずの気炎を上げていますが、私には危なっかしくて仕方がないという印象です。最初に目を留めたのは1990年代後半。2000年代に入ると、Yahoo BBのADSL端末を街角で配り始めました。このとき、なんと破天荒なことをするのだと驚愕したものです。さらに驚いたのは2006年、ドコモ、KDDIと3強だったボーダフォンの1.75兆円買収。大博打の買収と思ったものですが、いまではソフトバンクとして高収益会社になっています。1999年には揺籃期のアリババ集団に20億円を投資して筆頭株主となり、これが大当たりして、2014年ニューヨーク上場した時には、なんと8兆円の含み益を抱えました。この大当たりがその後のソフトバンクグループを支えます。アリババ株価は、一時上場時の3倍まで上がりましたが、米中摩擦や中国政府の統制で、いまでは上場時に逆戻り。2016年におよそ3.3兆円で買収した半導体設計のARM社は、わずか4年でエヌビディアへの売却を発表。売却額は4.2兆円にも上るとされましたが、米欧当局から「待った」がかかり、買収はとん挫した様です。ソフトバンクグループは投資会社へと変貌しましたが、一度買収した会社は手放さないバフェットのパークシャー・ハサウェイとはまったく違います。米国のIT株の大幅安で、株価は5000円割れ。報酬で孫さんと衝突し、幹部の退社も伝えられています。孫さん率いるソフトバンクグループを追っかけるより、ほかに地に足付けた投資はいくらでもあるように感じます。「君子危うきに近寄らず」です。

## MARKET

	(1月末)	(12月末比)
日経平均	27,001.98円	-1,789.73円 (-6.22%)
NYダウ	35,131.86ドル	-1,206.44ドル (-3.32%)
米ドル	115.20円	+0.05円 (+0.04%)

## 私の書棚より

これを知る者はこれを好むものに如かず。  
これを好むものはこれを楽しむものに如かず。  
(論語・雍也第6)

- 頭のいい人はよく知っているけれど、好きでなければそのうち忘れてしまう。長い目で見れば好む人のほうが強い。ところが、さらに長い目で見れば、楽しむ人が一番である。

## 東証改革 - 道は遠い

### ● 甘い上場基準

いよいよ4月より、東京株式市場は東証1部・2部・マザーズから、プライム・スタンダード・グロースの3つの分類に分かれます。まるで松竹梅の響きですが、果たして我々投資家にとって、この改革は意味あるものなのでしょうか。はっきり言って「意味なし」といってよいでしょう。投資家にとってメリットがあるかという観点で見ると、どこも変わっていないということです。たとえばプライムに残る企業には、プライムの基準を満たしていないいわゆる暫定上場の企業が数百社もある一方で、プライム基準を達成する期限が設けられてないのです。これでは、期限がないのだから基準を満たしていなくてもとりえずプライムに居続けようという動機が働きます。いわば「ゆるふん」なのです。こうなった背景に、有権者に泣きついてこられた政治家から金融庁に圧力があつた模様です。役人もそれに抗せないで受け入れてしまうと、どこ見て仕事しているのか、首をひねります。

### ● 器整え、中身なし

プライムの要件となる社外取締役三分の一以上というのも、実効性があるかという眉唾物です。いわゆる「数合わせ」はいくらでもできるからです。またプライム上場基準の流通株式時価総額100億円の基準はいかにも小さいです。このような小粒でありながらプライムに上場する企業は1841社もあります。これでは、海外の投資家を呼び込むことは困難です。海外の主だった投資家

は時価総額で5000億円程度が投資の最低ライン。これに対して、プライム企業の1社あたり時価総額の平均は600億円で、プライムにいながら投資対象にならないのです。グローバル投資家が運用指標とするMSCI世界株価指数から4000億円～5000億円とされる時価総額基準を満たせず、指数採用銘柄から除外される日本企業が相次いでいます。

### ● 人生は短い、よどんだ池から清流へ

東証改革は小さくなったお盆の中で、小手先の改革をやっているようなもので、すでに世界の潮流の中で決定的に遅れている状況に、さらに拍車をかけたといつて過言ではありません。新陳代謝が効かず、ぬるま湯、よどんだ市場と言っても言い過ぎではありません。どうも今回もこの頃目立つようになった「仕事しているような振りだけで、本当に何のための改革だったのか」という形で終わる可能性が高いでしょう。最終受益者の我々にとって、まともに見ておく必要のない改革なのです。人生は短いので、甘い期待をしていたら、貴重な時間を無駄にします。これまでの実績が示すように、ことごとく期待が裏切られてきたのが、株式市場を取り巻く実態です。我々にとって最も大事なものは、いかに効率よく資産を増やせるか。いつまでたってもよどんだ池ではなく、生き生きと水が流れる清流にさっさと行った方がいいことは論を待ちません。その清流とは、新陳代謝が効いて、たくさん魚がいるニューヨーク市場といつてよいでしょう。

## まかせて安心、資産運用のホームドクター

- 大切なお金を間違いない方法で運用しているのか、心配になることはありませんか。
- 退職後のセカンドライフを、お金の心配なく、ゆとりを持ってお過ごしですか。
- 仕事が忙しくて、なかなか運用まで手が回らないということはありませんか。
- 銀行や証券会社が勧めるままに、株や投資信託を購入していませんか。

金融商品の中身や手数料がどうなっているか、きちんと把握していますか。

びとうファイナンシャルサービスは、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーです。その強みを生かし、お客様に、客観的で、公正・中立なアドバイスを提供しています。手数料が高く売りやすい商品をお客様に売っていただくのではなく、お客様にもっとも適した金融商品やお客様にベストのアドバイスを提供しています。

びとうファイナンシャルサービスは、お客様の目標や夢の実現のため、40年を超える長い経験と深い専門知識、高い倫理観のもとに、お客様の利益のみに目を向けたサービスを提供しています。たとえるなら、多くのお客様の人生という航海で、無事に目的地に到着する大型客船であり、いつもお客様の資産運用という面で健康管理をするホームドクターです。



びとうファイナンシャルサービス  
代表 尾藤 峰男  
公認投資助言者 (RIA)

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

<http://www.bfsc.jp>

あなたの資産運用を成功に導くメルマガ！

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

発行者：びとうファイナンシャルサービス  
代表取締役 尾藤峰男

電話：03-6721-8386  
携帯：070-5567-3311 電子メール：info@bfsc.jp